

2020年4月8日

学長 殿

総合人間科学部社会学科
猿谷 弘江

研修概要報告書

以下のように、特別研修の間の成果を報告いたします。

記

2019年3月から2020年3月までの間、特別研修を行いました。そのうち、2019年7月15日から2020年2月16日までの7カ月間はオーストラリア国立大学にて客員研究員として研鑽を積みました。オーストラリアでの研究期間も含めた1年間の主な研究活動の成果は、①著書（日本語）の出版準備、②著書（英語）の出版準備、③学会誌投稿用の論文（英語）の準備と投稿、④オーストラリア国立大学の研究者との研究交流、および現地での視察と聞き取りとなります。詳細に関しては、別紙をご参照下さい。

以上

総合人間科学部長
社会学科長

① 著書（日本語）の出版準備

2020 年度に新曜社より『六〇年安保闘争と知識人・学生・労働者——社会運動の歴史社会学』（単著）を出版予定でいます。これはミシガン大学大学院に提出した博士論文 *Protests and Democracy in Japan: The Development of Movement Fields and the 1960 Anpo Protests* をもとにしたもので、日米安全保障条約が改定されるのに際して 1959 年から 1960 年の間に生じた「六〇年安保闘争」とよばれる社会運動が、知識人、学生、労働者という異なる主体によってどのように担われたのかということを実際の資料と当事者へのインタビューをもとに、社会学の理論を用いて分析したものです。オーストラリアでの在外研究中を含め、特別研修中にはこの著書の執筆を行いました。

② 著書（英語）の出版準備

上述の著書は、日本語での出版の後、英語での出版も予定しております。かねてより Routledge 社の編集者と話を進めておりましたが、2019 年 5 月に編集者が訪日した際に打ち合わせを行い、出版のための出版概要（book synopsis）を完成しました¹。

③ 学会誌投稿用の論文（英語）の執筆と投稿

論文「Field Interaction and Social Movement Organization Dynamics: The Rise of Japan's First New Left」を執筆し、英語のジャーナルに投稿をしました。この論文は社会学で議論される「フィールド」の概念を用い、複数のフィールドのダイナミクスの中から日本の新左翼の組織がどのように発生、発展したのかを分析したものです。

④ オーストラリア国立大学の研究者との研究交流、および現地での視察と聞き取り

オーストラリア国立大学での在外研究中は、上述の活動の他に日本研究、またアジア研究に携わる研究者や大学院生と研究交流を行いました。具体的には、在外研究先での所属学科（College of Asia and the Pacific）が主催する 2 泊 3 日のリトリート（研究成果の発表と交流を目的としたもの）に参加したり、大学院生の博士論文の研究成果発表会で助言をしたりなどです。オーストラリア国立大学には Tessa Morris-Suzuki 先生をはじめとする日本研究の第一人者がおり、関心を共有する研究分野の研究者とフォーマル、インフォーマルに交流を深める機会もありました。また、オーストラリア大学のあるキャンベラには、オーストラリア先住民の人々が権利を求めて抗議行動を行っている場所がありますが、そこで聞き取りをしたり、オーストラリアの建国記念日に合わせて開かれた先住民の人々による全国的な抗議行動の場に参加したりなど、私の研究領域（政治社会学、社会運動）に関わるテーマに関して、現地での見聞を深めました。

¹ 英語で著書を出版する場合、出版概要をもとに審査員（学術研究者、複数名）による審査が行われ、出版社からの出版の可否が決定されます。